スタジオジブリ作品
STUDIO GHIBLI
星をかった日

どこへ？
イバラードを探しています。

ジブリの森のえいが

星をかった日

原作：井上直久
脚本・監督：宮崎　駿
音楽：都留教博・中村由利子
演出アニメーター：賀川　愛
制作：スタジオジブリ
スタジオジブリ・マンマユート団　提携作品
上映時間：16分3秒

あらすじ

　ノナ少年の住む町には、時間の使い方を見張っている時間局があって、ムダな時間や、まちがった時間の使い方をする者に忠告したり指導したりしています。

　時間を大事にしなさい

　　　間に合わない

　　　　　早くしなさい

　　　　　　　もう出発する時間です

　さもないと必要のない人間になって、みじめな一生を送りますよって。

　ノナは間に合わない、サッサと出来ない少年です。息がつまって、たまらなくなって家を出たら、いつの間にか誰もいない砂漠をひとりで歩いていました。

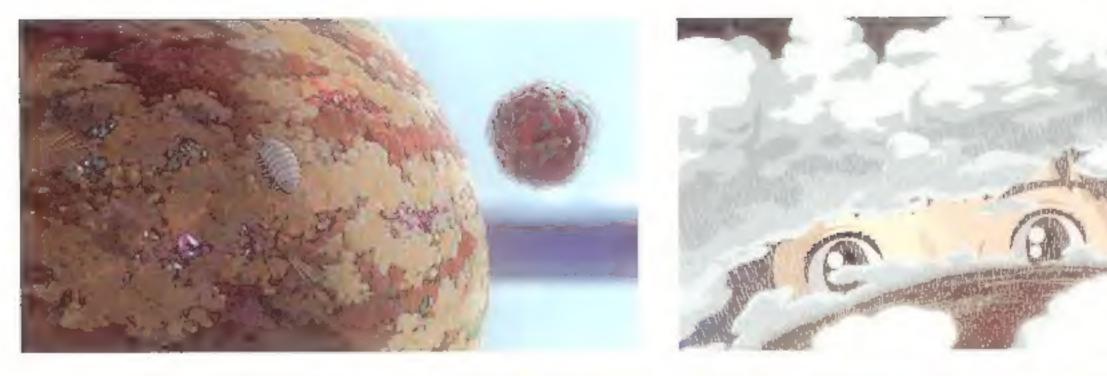
　ノナは、そこでふしぎな女性ニーニャと出会い、彼女の農園の小屋で暮らし始めるのです。

ノナの日課は、石の井戸から水を汲みあげて、畑の土をうるおすこと。
物置で古い三輪車をみつけて、ある日、おもいきってカブを市場に売りに行くことにした。

「その赤いやつは、赤色巨星のだ」
「まあ、素人には無理だね」

星が生まれようとしている。

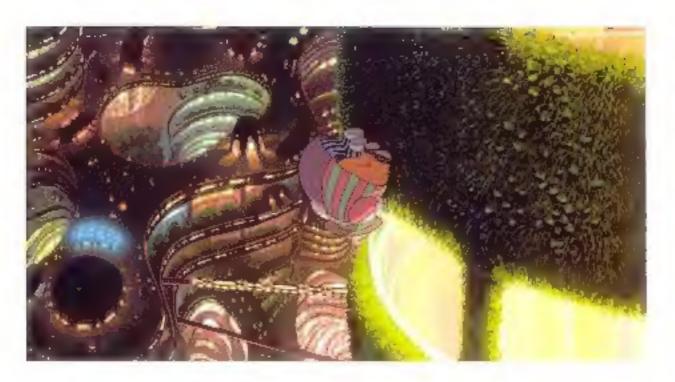
時間局がノナを探しに来る。ニーニャは、ノナがまだ戻れないのを知っている。
ようやく、自分の星を育てはじめたばかりなのだ。

月が三つに、ダンゴ虫が一匹…。

二重月の日、市場に野菜を売りに行き、ノナは霧吹きを手に入れた。

霧は雲となって星をおおい、雷をはしらせ、雨となって生まれたばかりの大地にふりそそぐ。

星はまだ植木鉢からはなれられない。でも時間切れだ。

これ以上ニーニャに迷惑をかけられない。

イバラードへワープ!

ニーニャから使いが来た。星が宇宙へとびたつ日が来ていた。

「行きなって、言ってあげて」

お前もうさみしくないね。

ぼくもとびたたなきゃ…。

お行き、きっとまた、お前に会えますように…。